

令和3年度 府立北桑田高等学校 美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(計画段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。 2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。 3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。	[成果] ・基礎基本の定着に重点を置いた授業展開ができた。 ・多様な生徒の個々に応じた学力の定着と慎重を図るため、家庭との連携を密に行い、支援・指導に努めることができた。 ・学び直し学習、SSTの充実が図れた。 ・実践を重視した専門学科の教育の充実を図り、地域と連携した取組につなげることができた。 [課題] ・個々の課題に目を向け、個々に応じた学習支援の充実を図る。 ・日常的な学習指導の中でSSTの要素を取り入れ、一層の充実を図る。 ・働きながら学ぶという目標のもと、就労率の向上を目指す。 ・美山分校の教育内容の広報活動の充実を図る。 ・地域の中で魅力を発揮できるよう、広報・情報発信を含め地域と連携した取組を行う。	1 教材や指導方法の工夫改善により、基礎・基本の充実を図る。 2 農業科と家政科の専門学科の特性を生かした取組を充実させるとともに、両学科が連携した取組の推進にも積極的に取り組む。 3 個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路実現を図る。 4 働きながら学ぶという目標のもと、生徒の就労支援を積極的に行う。 5 希望生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 6 新学習指導要領や学校の特色化に対応した教育課程を作成する。 7 広報活動を積極的に行い、地域と連携し、外から見える学校づくりを進める。 8 地域との連携を深め、地域の力を活用した学校づくりを推進する。 9 安心安全な学校づくりを進める。 10 ICTの教育への効果的な利活用を進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の資質・能力の向上を図る	校内外での研修の機会を積極的に活用し、自己の課題を明確にするとともに教育力向上に努める。		
		教育実践の成果と課題を日常的に交流し、指導の充実につなげる。		
	組織的な指導体制の確立する	身近な物の整理整頓から安全確保の推進につなげる。		
		ICTの利活用を進め、効果的な教育活動を行う。		
教育課程	学校の特色を生かした教育課程の編成	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。		
		生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程を編成する。		
	新学習指導要領に則した教育課程の編成	生徒の進路実現に向けた教育課程を編成する。		
		新学習指導要領に関わって、情報を入手し、その主旨を理解した上で効果的に導入できるように努める。		
教科指導	各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する	新学習指導要領に対応した教育課程を編成する。		
		シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。		
	個々の生徒の学力を充実させる	授業公開を通して課題を明確にし、授業改善を図る。		
		個々の生徒の学力、理解の程度を把握しつつ、学期ごとに年間指導計画の点検と見直しを行う。		
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する	学習習慣の確立や基礎事項の反復等、基礎学力の定着を可能にする工夫をする。		
		4年間を見通したホームルーム活動の指導計画のもと、ホームルーム経営の改善・工夫に努める。		
	主体的な生徒会活動、創意工夫した学校行事の運営	他学年や各分掌と連携しながら、各学年の生徒状況に応じた、適切なホームルーム内容になるよう努める。		
		体育祭や文化祭などの学校行事の成功に向け、生徒会を中心に生徒主体の取組になるよう努める。		
		主体的な生徒会活動を通して、生徒の意見が反映された創意工夫を感じられる学校行事となるようにする。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導	「働きながら学ぶ」を実現できるよう指導する	不就労生徒への援助・指導を行い、必要であれば就労先を開拓する。		
		就労先との連携を密にする。		
	自己の能力と適性を把握して希望進路の実現を目指す	生徒個々に対応した進路指導を行い、卒業予定者全員の進路決定を目指す。		
		支援を要する生徒の進路を関係機関と連携して決定していく。 3年生の進路意識高揚に努める。		
生徒指導	問題事象の未然防止や早期発見ができる体制を構築する	日頃から生徒とコミュニケーションをとったり、アンケートを実施するなど、教職員に対して相談しやすい雰囲気をつくる。		
		各分掌や教職員と連携を密にし、生徒の状況把握に努め、問題事象の未然予防や早期発見につなげる。		
		地域や関係機関と連携し、問題事象に適切に対応するよう努める。		
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する	相手を思いやる気持ちを育み、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。		
		いじめや他人を傷つける言動は、絶対に許さないという強い姿勢で指導する。		
		あいさつの励行、適切な言葉づかい、身だしなみができるように指導する。		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	生徒の社会的自立に向けた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。		
		全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う。		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため、教科学習の指導を充実させる。		
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。		
研究・研修	教科指導・生徒指導の資質向上に努める	学校の課題に合わせた校内研修を行い、指導力の向上を目指す。		
		定通研の成功に尽力し、教職員の資質向上に貢献する。		
		外部で行われる公開授業や各種研修会へ、積極的に参加する。		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高める課題を持つ生徒の支援を図る	生徒1人1人に丁寧に時間をかけ、自分の言葉で自分の生活や身体の状態について話せる力を身につけられるよう対応を行う。		
		生徒の特性を理解し、適切な支援ができるよう関係機関等との連携を大切にする。		
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。		
		防災教育を計画的に進める。		
		教育環境の改善と安全管理の徹底を図る。		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、生きる力を身につける	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。		
		チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーション力の向上を図る。		
		学年・生徒ごとの実態に応じた学習内容を検討し、指導方法を工夫する。		
	校内外で連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育む	家政科との連携を強化し、学校全体を活発なものにする。		
		農業クラブ活動を活発なものにする。 農場生産物の販売を積極的に行い、地位からの評価向上に努める。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
家政科□	家庭の生活やそれに関わる産業に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	個々の適性に合わせた指導法、教材を研究し、基本的知識と技術の定着につなげる。 外部講師を活用した体験的かつ専門的な学びの機会を設定する。 課題解決的な学習を通して生徒一人ひとりの達成感につなげる。			
	学習したことを活かし、自分や家族、地域のより良い暮らしにつなげる意識を育てる	農業科と連携し、地域とつながり、地域社会の活性化に貢献する取組となるよう努める。 持続可能な社会の実現について深く理解し、研究したことを発表する力をつける。			
	第1学年	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	基本的な生活習慣を身につけるためのソーシャルスキルトレーニングを行う。		
			個々の生徒の実態に応じて、授業に集中できる学習環境を整える。		
他人を思いやる気持ちを育む学級運営をする。					
HR活動・学校行事に積極的に参加できるように働きかける。					
第2学年	・目標に向かって、見通しを持って行動できる力を伸ばす ・周りの人との関わりを大切に、協力し合うことを通して、互いに高められるようにする	主体的に行動し、自ら学ぶ態度を育てる。			
		他人を思いやる気持ちを育み、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける。			
		HR活動・学校行事等への積極的な参加に繋がる指導を行う。			
		それぞれの学習目標に向かって見通しを持って学習できるように指導する。			
第3学年	各自の特性を活かしながら、それぞれの力を発揮できる機会を増やす	一人ひとりが目標に向けて見通しを持った行動ができるように助言する。			
		学校行事等への積極的な参加につながる指導を行う。			
		他人を思いやる気持ちを育み、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける。			
	卒業後の進路実現を見据え、自己理解を深めるとともに自律的な行動ができるようにする	自分の興味関心の方向性や能力を理解させ、進路選択につながるような指導を行う。			
		日頃から自律的に考え、自発的に行動できるように助言する。			
		将来の明確なビジョンを持てるように社会について学ぶ機会を設ける。□			
第4学年部	自発的に学ぶ姿勢を持ち、それぞれの特性、興味、関心に応じた進路実現を目指す	自分を見つめ、自分の能力に応じた目標を定め、進路実現できるように指導する。			
		社会に出ることを意識して、日々の学校生活を送ることで、スキルアップにつなげられるように指導する。			
		進学や就職について、自ら動けるよう助言する。			
	人との関わりや学びを通して、よりよい人格の形成を目指す	社会人としてのルールやマナーを身につけ、規範意識を確立して自律の精神を大切にできるよう指導する。 最高学年として、自分のことだけでなく学校全体のことを考えて行動できるようにする。			

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科□	生徒一人ひとりの実態に応じた課題を設定し、言葉の使用者としての基礎学力の向上を図る	個々の生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。		
		様々な文章を通して、話す・聞く・読む・書く学習をバランス良く行う。		
		学習に遅れが生じる生徒には、個に応じた補充を行う。		
		様々な文章に触れられるように、読書習慣の定着を図る取組をする。		
数学科□	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す	各単元で必要とされる基礎知識を復習してから授業に入るようにする。		
		1年生は中学校との接続に配慮した授業を行う。		
		考える時間や演習を多く設け、生徒が受け身にならないよう配慮する。		
		理解が不十分な生徒には個別指導を行う機会を設ける。		
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能の向上、健全な心身の発達を目指す	体育分野を通して、体力や運動技能を向上させるとともに、運動に対する知識理解を深める。		
		体育分野を通して、公正、協力、責任などの態度を育てる。		
		保健教科を通して、健康で安全な生活を送るための基盤を養う。		
		保健教科を通して、環境問題・健康問題について思考・判断できる教養を身に付ける。		
		レポート作成を課題として環境問題や健康にに対する知識理解を深めるとともに、他者に伝える力を養う。		
英語科□	中学校での学習を土台にしながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する	聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。		
		言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。		
		英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。		
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。 選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。		
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関等との連携、協力を進める	様々な機会や方法を活用し、家庭との丁寧な連携に努める。		
		地域の方々や関係諸機関等と連携し、地域に貢献する活動を教育活動に取り入れる。		
		美山分校の活動が学校の外から見えるような広報活動を工夫する。		
		育友会事業などをはじめとする社会教育を支援し充実させる。		